

中生代新開

羽毛恐竜の誕生一億(四五〇〇万から六六〇〇万年前)

羽毛をもちた恐竜化石の相次ぐ発見で、「恐竜は鳥になった」という仮説は見事に立証された。だがそれは新たな謎の始まりだったのだ。

羽毛恐竜の発掘現場

羽毛恐竜の化石の発見が相次ぐ。中国東北部・遼寧省の白堊紀前期の堆積層。恐竜以外にも、初期の鳥類、原始的な哺乳類、昆虫などの化石が産出し、地層群の名称をとって、熱河(ねが)動物群と呼ばれている。当時は火山活動が活発で、降り積もった火山灰によって保存状態のよい化石となった。

オルニトミムス化石

年齢10歳ほどの成体の化石。前肢に翼の痕跡がはっきりと確認できた。また、別の個体の首の部分には羽毛の痕が残っていた。オルニトミムスは、北米大陸で初めて確認された羽毛恐竜となった。

鳥類への道(一億五〇〇〇万から六六〇〇万年前)

羽毛をもち、翼を手に入れて、飛翔するようになった恐竜は、さらにその特性を進化させる。鳥類の出現だ。